

テイコプラニンの TDM における初回トラフ濃度低値の要因 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2024年 11月 12日 ~ 2030年 3月 31日

〔研究課題〕 テイコプラニンの TDM における院内マニュアルへの導入と初回トラフ濃度低値の要因の検討

〔研究目的〕

抗菌薬 TDM 臨床実践ガイドライン 2022 において、テイコプラニン(以下、TEIC)の治療薬物モニタリング(以下、TDM)評価は、トラフ値を指標とする投与設計が行うことで効果的な治療が行うことができることが分かっています。
当院では病院内で設定した投与方法で治療を行っていますが、それに伴うトラフ値の濃度低値の原因について調査を行います。

〔研究意義〕

TEIC のトラフ値による TDM に対して、有効血中濃度達成率と達成できない要因を明らかにすることにより、より早期に薬物治療効果を発現させることを目的としています。

〔対象・研究方法〕

対象期間は 2023 年 4 月から 9 月とし、対象患者様を当院入院中で TEIC の血中濃度測定を行った成人患者様です。調査項目は年齢、体重、投与 3 日目までの体重あたりの総投与量、TEIC の初回トラフ濃度、血清アルブミン、血清クレアチニン等として、初回トラフ濃度 15 $\mu\text{g}/\text{mL}$ 未満の群と 15 $\mu\text{g}/\text{mL}$ 以上の群に分けて後方視的に比較検討を行います。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院薬剤部

〔個人情報の取り扱い〕

データは個人が特定できる情報を除外した形で登録されていますので個人が特定されることはありません。
研究実施中は調査データを薬剤部内の所定の電子媒体内に保存します。収集したデータについては、「臨床研究における記録保管に関する標準業務手順書」に基づき、研究終了後に電子化したデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて 10 年保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 今中翔一 職名 係長
所属: 帝京大学医学部附属病院薬剤部
住所:板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211 (代表) [内線 7822]